

『書きたいこと』 作：ポチ子

何か書きたいことがあったような気がする。

いや、あったようなではない。

確かに、書きたいことがあったのだ。

それなのに、ペンを持ち、紙と向かいあっても、

一向に手が進まない。

私の頭の中に、私の思いが、

確かにあったはずなのに。

どうしても、その一文字目を思い出すことができない。

消えてしまった言葉を探そうと、

必死になるけれど、

言葉たちが私のもとに戻ってくることはない。

あの時、すぐに書き留めていればと後悔する。

日々の忙しさを言い訳に、

また後でいいと、

そうやって、私は言葉を捨てたのだ。

消えていった言葉たちは、私を恨むだろうか。

見て見ぬふりをした、

置き去りにして忘れた、

私を責めるだろうか。